

Secondary 豚 発 育 成 績

岡 田 武 彦*

さきに SPF Swine 誌第1号にて、中島が Primary 豚および Secondary 豚の発育成績について中間報告をのべているが、その後の Secondary 豚の成績を第2報として報告する。

I 材料および方法

- 1) 供試豚
 当场生産の Secondary 豚 197 頭 (♂ 17 頭
 ♀ 180 頭)
- 2) 期 間
 昭和 44 年 12 月 4 日分娩より
 昭和 45 年 7 月 16 日分娩まで
- 3) 期間の区分
 - a) 離乳より体重 20kg まで
 - b) 前期: 体重 20kg より 50kg まで
 - c) 後期: 体重 50kg より 90kg まで
- 4) 飼料および給与方法
 当社において開発した SPF 豚用人工乳 A,
 B, 育成豚用前期用, 後期用, および種豚用を
 使用した。形状はペレット状, 給飼方法は制限
 給飼とし 1 日 2 回給与した。給与量については
 SPF Swine 誌 1 号 18 頁第 2 表を基準とした。

なお、本成績は種豚育成を目的としたものであって肉豚肥育成績ではない(表 1)。

II 成 績

1. 発育成績

発育成績は表 1 のとおりである。すなわち 20 kg 到達日令平均 65 日, 20kg より 50kg まで 56 日, 50kg より 90kg まで 73 日を要し, 分娩より通算して 194 日で 90kg に到達した。

これは性成熟を十分に行なわせしめ, さらに体重の急増による脚弱, 腰萎の発生をさけるために発育を抑制したことによると思われる。

このため, 育成中の脚弱, 腰萎は 1 頭も発生せず, 好成績を収めることができた。

2. 発情・交配

発情については, 同腹のものは 60 % が同時期に発情し, 残りのものについても 7 日~12 日のズレで発情を見たが, 種付成績については別の機会にゆずる。

3. 疾病対策

昨年も Primary 初産豚について, 流産および黒子発生の苦い経験を持っているので, 今年は早い時期より対策に腐心し, 高力価ワクチンの 3 回注射によって予防につとめたが, 残念ながら現在までに約 20 % の流産が発生し, さらに正常分娩のものにも黒子が混じっており, 子豚の育成率にかなりの損害を受けた。

ただし, 上記の流産黒子の原因については, 現在調査中であるので, 臨床上より見た報告にとどめる。

III 要 約

Secondary 豚の種豚育成については, SPF 豚だからといってなんら危惧するところはなく, どちらかといえば, 発育の抑え方に苦労したくらいであり, 他の点については Conventional 豚となんら異なるところがない。今後の問題点は, いかに飼養しやすい種豚を作出するかにあり, われわれは今後育種, 交配に研究の重点をおく予定である。

* アミノ飼料工業(株)山 SPF 豚農場

表1 Secondary 豚育成要求率

Litter No.	生年月日	離乳時 平均体重	離乳~20kg		20~50kg		50~90kg		20~90kg		
			1頭当 食下量	F・C	1頭当 食下量	F・C	1頭当 食下量	F・C	1頭当 食下量	F・C	
1	11-77	44.12.4	4W 7.38kg	18.9kg	1.49	88.6	3.07	148.0	3.70	236.6	3.43
2	11-81	12.26	4W 7.35	19.9	1.57	77.6	2.59	110.6	2.67	188.2	2.64
3	10-70	45.1.15	5W 6.10	21.0	1.52	65.6	2.26	105.3	2.57	170.9	2.44
4	8-51-0	1.5	↓ 8.24	15.8	1.39	73.2	2.41	157.0	3.93	230.2	3.27
5	8-46	1.9	7.63	16.8	1.40	76.9	2.51	201.0	5.03	277.9	3.94
6	8-51	1.29	8.85	17.9	1.44	80.8	2.82	143.0	3.58	223.6	3.26
7	9-59	2.7	8.60	20.9	1.83	76.8	2.48	142.8	3.66		3.14
8	9-57	2.10	10.80	15.3	1.44	78.8	2.76	111.7	2.79		2.78
9	12-92	2.21	9.84	15.8	1.56	65.0	2.17	131.6	3.37		2.85
10	12-89	3.12	8.64	19.1	1.55	95.0	3.11				
11	12-85	3.15	9.33	21.3	1.78	87.5	3.10				
12	12-93	3.19	6.90	23.2	1.70	74.0	2.52				
13	12-86	4.5	8.93	25.2	2.02	93.5	3.06				
14	10-67	4.7	9.12	19.0	1.75	55.9	1.86				
15	8-48	5.3	8.35	17.5	1.50	63.8	2.14				
16	10-70-2	6.15	6.27	17.3	1.26						
17	3-21-3	6.15	6.38	32.3	2.07						
18	4-25-3	6.15	5.39	27.2	1.86						
19	1-7-3	6.15	5.16	27.3	1.74						
20	8-51-2	6.26	9.45	19.3	1.83						
21	2-12-3	7.9	9.95	17.3	1.72						
22	8-46-2	7.16	10.32	18.0	1.73						
平均		197頭	8.18kg	20.3kg	1.71	76.8kg	2.56	139.0kg	3.47		3.08

表2. 種豚育成成績

	頭数	20~50kg F・C	50~90kg F・C	20~90kg F・C
Primary 豚	69頭	2.4	3.3	2.9
Secondary 豚	197頭	2.56	3.47	3.08
比較		0.16	0.17	0.18

最後に Primary 豚と Secondary 豚の種豚育成成績を簡単に比較してみると表2のとおりである。

当初のわれわれは SPF 豚計画立案に際し、

SPF 肉豚を企業的に経営した場合の F・C を 3.2 としたが、これは完全に実現可能の数字といえよう。

※

※

※